

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900083		
法人名	医療法人 社団 寿光会		
事業所名	グループホームいきいきの家香取		
所在地	千葉県香取市玉造1-4-1		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 17 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てで静かな住宅街の一角にあります。施設内はバリアフリーはもちろん、浴室には入浴用リフトを設置しており車椅子の方にも対応しております。ゆったりと過ごすことができるリビングからは四季折々の自然を感じることができ、遠くには筑波山を望むこともできます。コロナ渦ではありますが、静かな田園を散歩したりドライブに出かけたり、また室内でのレクも充実させご入居者様がストレスを感じることがないように努めております。訪問診療、訪問看護、訪問歯科、訪問リハビリ、栄養指導が実施され医療面でも安心です。他科受診も対応しております。定期的に訪問カットも来所しており身だしなみを整えております。面会は窓越し、パーティーション越し、WEB面会を行っております。その他、ご家族の方にはインスタグラムを通して、ホームでのレク等の様子をお伝えしております。定期的にカンファレンスはもちろん、ユマニチュードケアの研修を行い職員一人一人が質の高いケアを目指し、入居者様の尊厳を守りつつ家庭的であり安心かつ安全な生活が送れる施設作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の良い点①法人方針のユマニチュードの継続研修が5年目を迎え職員のスキルも確実に向上し、利用者との信頼関係が向上して安定・安心な支援が行なわれている。施設の支援目標の標語「笑顔溢れる介護」は職員が共有し実践され、お互いの笑顔が溢れる現場である。②施設の立地条件を生かした田園風景の中でのんびりした散歩、近くのスーパー・コンビニでの買い物などで、近隣住民との挨拶を交わす中で家庭での生活の延長として営まれている。③今年度2例の看取りが行なわれ医師の指導の下、慣れない中でもやりきった実感を感じている。経験する事で達成感も深く、よりその人は何をしたら喜ぶかを考えるきっかけとなると共に家族からの「ありがとう」の言葉を頂き、介護に対する重要性和仕事に対する自信と誇りを持つようになった職員が多い。今後の目標として職員の負担軽減の為、事例検討会の開催、家族との会話の必要性やマニュアルの整備など、ニーズに答えるた為、職員全員で前向きに取り組む姿勢の施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所、各ユニットに掲示。名札の裏にも書いたものを入れており、理念を常に念頭に置き、目標とし取り組んでいる。	理念実践の為の行動指針の標語「笑顔溢れる介護」は職員で共有され、ユマニチュードの技術の向上で自信と誇りを持って支援に当たって居る。新しい標語を作り法人の理念の実践に向けた取り組みを期待したい。	聞き取りの中で新しい標語のヒントとして「か？」で終わる会話にすれば、利用者意思の尊重と尊厳に寄り添うのではないかとこの話があった事を踏まえ、職員で相談し新しい標語の下、理念が実践される事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地域の方と散歩時に挨拶を交わしたりしている。	利用者は天気の良い日は散歩やスーパーに買い物で挨拶を交わし地域住民とは顔も知りの関係が構築されている。職員は図書館に出向いて本を借りに行っているたり、美化活動に参加して施設の存在をアピールし、認知度は高い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで機会は減ってしまったが、運営推進会議やホーム内レクへの参加を呼びかけ、理解を深めていただけているようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の報告や活動内容、研修内容報告を行っている。また意見の交換を行いサービスの向上に努めている。	運営推進会議として家族や市の自治会長・民生委員に書類で意見を求めフィードバックしている。ホームからは利用者状況・行事・研修・台風時の対応等が報告されている。家族来訪時には意見・要望などを聞き取り改善とサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着連絡会が対面で行われるようになり、身近に担当者を感じることができ、報告、連絡、相談がしやすい環境を作ることに努めている。	市の担当者とは介護保険や他の市町村からの入居等の相談、介護保険加算取得の相談等何でも連携して行なわれている。メールでの感染症・災害時対応・研修案内等に協力して取り組んでいる。グループホーム連絡会では困っている事の対応等の情報交換や研修に参加して連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、センサーで人の出入りを確認している。身体拘束のないケアをするために、カンファレンス等で話し合い、実践している。	法人の身体拘束0宣言の5つの目標を掲示し、身体拘束委員会を開催して研修し、職員へは会議で取り上げ又ミーティング時にはリスクと安全について話し合い、利用者の動向を見守り、行動の理由を考えて言葉の拘束はしないように心の余裕を持つように心がけている。利用者家族には身体拘束をしない事を説明し、しない事でのリスクを理解して貰うよう説明が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に自己チェックを行い、自分自身を見つめなおし、虐待を未然に防ぐようにしている。また、研修を行い共通認識を持つように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い方については話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の十分な説明を行っている。不安や疑問点をお聞きしご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口があることを入居時説明している。各ユニットにも掲示している。また、面会時や電話連絡等により、ご意見ご要望を伺い支援並びにサービス提供時に反映させている。	家族来訪時には利用者への支援の要望や施設への改善点などを聞き取るようにしている。ケアマネージャーは面会時にケアプランの説明と話し合い、来れない家族には変化時には電話をしている。居室担当者は毎月「生活レポート」として生活状況を「生活面・医療面等と小遣い残高」と写真を添えて家族に送付し、良く状況が分かると好評となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホットライン制度があり代表に意見を伝える制度がある。また、コミュニケーションを図り意見を言いやすい環境作りをしたり、カンファレンスで提案を聞く機会を設けている。	働き方改革が求められている今、時短職員の採用、シフトの柔軟な対応など、働き易さの希望・要望を何でも話し合い、信頼関係からモチベーションアップに繋げている。パソコン得意な職員にはWEB映像を投稿する役割を分担している。家族からは施設での生活の雰囲気や親の笑顔が看られて安心との感想が寄せられ職員のやる気にも繋げている。個人面談を実施して意見・提案を聞く機会を設け風通しの良い職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標を立ててもらい向上心を持って働けるようにしている。資格取得制度を設けておりステップアップできる環境を作り、資格手当やレベル手当に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が行う研修だけでなく、外部研修に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡会が定期的に行われている。対面式になったことで、感染対策の勉強会や、情報交換がスムーズになり、サービスの質の向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前及び、入居時にご本人やご家族様が困っている事、不安に思っている事を伺い、記録し、職員で共有し安心して生活が送れるよう考え、早期に生活に慣れていただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見、困っている事、不安な思いを聞き、本人への支援につなげていくことで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診や他のサービスが必要と判断した場合、スムーズに利用できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活習慣を大切に、出来ることはご自分でやっていただいたり、個々の能力にあった支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、お便りを出し状態を共有、レク等に参加された写真も同封し施設での様子を知らせている。またインスタでもレクの様子をアップしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の理解、協力のもと馴染みの方への面会や電話、お手紙等支援している。家族へ直筆の年賀状をだしている。	面会困難なコロナ禍に対応する為、携帯とパソコンを使いズームでの面会の仕組みの構築は継続している。コロナ禍が収まりつつある今直接顔を見たいとの家族が増えていて、時間を決め予定を摺り合わせ玄関ホールを区切り、寒さ対策を行ない実施している。毎月のお便りには写真・コメントで利用者の近況を知らせる工夫を取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格を把握するとともに個性を尊重しながら、対立や孤立しないよう心掛けている。また、1人の時間も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅等へ帰った後のサービスなどの情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に日常生活の上で、大切にしている生活習慣を伺い、希望に添えるよう支援を行っている。また、日常生活の会話の様子から意向の把握に努めている。	入所前に生活歴等を聞いてアセスメントシートに詳しく記録し、入所後は生活の様子や会話をして意向を聞き取り、生活の記録で申し送りをしてケアプランに反映している。利用者の生活習慣を大切にし、掃除・食器洗い等当たり前にやってきた事はやってもらい、その人に合わせて支援している。また、思いを伝えられない人は一緒に行動をして笑顔から理解をする様に務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に本人、家族から生活歴を確認し、アセスメントシートに記載している。新しく得た情報は随時追加している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況を毎日記録し、状況、状態の変化を把握する。ケアカンファレンスなどで現状の残存機能について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れるとともに、管理者や職員と情報を共有し、それぞれの意見等を反映させてケアプランを作成している。	担当者職員は家族の意向を確認し、ケア記録に記録し、ユニットのケアカンファで意見を述べ、ケアマネージャーは残存機能や改善点を話し合っケアプランを作成している。モニタリングを行って、課題はカンファレンスで話し合っている。変化時には医師の意見を聞いて見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を記録し、状況の把握に努め、申し送り等を通じ職員間で情報のを共有し実践やプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、買い物、病院受診付き添いなどの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染リスクの少ない所へ少人数で出かけ、季節を感じていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望を確認している。受診時に適切に病状を伝えられるよう心掛けている。ご家族の協力で受診、または職員が対応、受診後は家族に受診結果の報告を電話等で行っている。	入所時に往診とかかりつけ医について話し合い、今年度入所者は全て訪問医に変更している。毎週往診が行なわれ、看護師には温度板を見せて気になる事は相談し、受診も行われている。また、体調変化時には看護師に伝え往診や受診が行われている。精神科の受診は職員が同行して状況説明をし、受診後は「支援経過記録」に記録し家族には電話連絡を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子、気になる症状を記録し訪問看護時に伝え、相談、指示を仰いでいる。必要に応じて、受診や往診対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い情報提供を行っている。主治医やソーシャルワーカー、担当看護師と連絡を取り合い、情報交換や相談を通じて関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合い、書面にて説明している。本人の状態が大きく変化した際には、医師や看護師の意見を踏まえ、家族の希望を確認している。	本年度2例の看取りを実施した100歳の利用者の事例では医師の助言・看護師の協力・家族との話し合いなど慣れない乍らも達成した経験は大きい。家族からの「ありがとう」の言葉には仕事の重要さと自信と意欲に繋がり、利用者への向き合い方がより深くなり、なにが本当にされたいのかを考えるようになった事は意義深い。	看取りの経験で大切な点として、職員の精神的負担の軽減が大切との観点から、事例検討の研修やマニュアルの整備などの態勢作り、家族の理解の為の説明事項の整理など沢山の準備を早急に整備する事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の方法を常に目に付くところに掲示している。また、救急隊員による応急手当の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害を想定した訓練を実施。職員全員が避難誘導を身に付けるように訓練している。	年2回消防署員立ち会いの下、「火災通報専用電話」取り扱いの指導を受けた。台風時の3日間停電の時の対応は2日目はショッピングセンターへ・3日目は系列施設へ全員の避難を実施し19号台風時には法人指示により事前に他施設に避難が行われた経験をしている。災害時の経験を活かしてポータブルコンロ・ヘッドライト・センサー等の補充が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、ユマニチュードの研修を年間計画をたて、実施している。また、繰り返し行うことで能力を身に付けていくことに努めている。	ユマニチュードの研修が5年目を迎えスキルが向上し職員は自信を持って支援を実践している。困難事例でも信頼と絆の関係を構築する事で改善に繋げている。職員同士は言葉遣いに配慮して不適切な時には注意をしあって改善し、居室へはノックで了解を得て入室する等、尊厳とプライバシーに配慮している	支援目標の標語「笑顔溢れる介護」は達成された今、新しい標語、例えば「か？」付き会話の実践で、より尊厳と意思に寄り添う事が出来ると考えられ、職員との話し合いの中で決め新しい標語の下、職員一同同じ方向を向いた支援に繋がる事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝えやすい環境作りを心がけ、声をかけている。会話の中でも本人の意向を尊重するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、食事の時間など、その方に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに応じている。また床屋も1か月半のペースで来所され、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて野菜の皮むき等手伝っていただいている。また、調理レク等を通じて食の楽しみ方を工夫している。嚥下状態に応じて、お粥、刻み、ミキサー食等の形態で提供している。	コロナ禍で企画外食など開催不能の為、食事時間の充実を図った。新聞広告などから好きなものを好きなだけ選んで個人別に会計し写真と領収書を添付して送付し笑顔を見た家族から嬉しいとのコメントを寄せられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を活用し、個々の状態を確認しながら支援している。管理栄養士にカロリー、食事形態等の相談ができる環境にある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔維持に努めている。歯科往診にて個々にあった適切な口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の状態を把握、適時誘導を行っている。できるだけトイレで排泄し、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。失禁がない方はリハビリパンツから布パンツへ変更の支援も行っている。	排泄チェック表から時間での声かけ・仕草や表情を見て、トイレでの自立排泄を支援している。日中は布パンやリハパンツを使用してトイレへ行く回数を増やし、拒否する人には時間をずらし・人を替えて支援している。食事や水分量と排便の把握をし、医師の指示により下剤の調整をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分補給に心掛けている。また、排泄チェック表にて排便の状態を把握し、個々に応じた医師の指示に基づく便秘薬の調整で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の対応を基本とし体調やその日の状況、希望に応じて対応している。リフト浴など能力に応じた入浴支援を行っている。	週2～3回を基本にバイタルチェックでの体調や気分に合わせて柔軟に支援している。拒否のある時は時間をずらし・人を替えて声かけをしている。脱衣場や浴室の温度管理、転倒など安全面、皮膚・痣の点検や軟膏塗布を行なっている。浴槽をまたげない人は2人介助でリフト浴で対応している。ゆっくりと入浴をし1対1の時間を大切にして昔話で会話が盛り上がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休んでいただく。寝具等の洗濯、布団干し等、清潔保持に努めながら気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や副作用を主治医に確認している。また、服薬の際には職員2名で確認し間違いのないよう支援している。服薬チェックを記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理を手伝っていただいたり、洗濯干しやたたみ、お膳拭きを日課にしている。またご家族からの嗜好品の差し入れがあった際には、時間を決めて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ等個々の希望に応じている。	ホームの周りは田園風景が広がり、散歩は歩ける人2～3名と車椅子と一緒に掛、近くのスーパーでの化粧品・お菓子などの買い物に行っている。玄関先での日光浴や季節の花を楽しみ、外出行事では桜・梅・チューリップ・ひな人形の見学やワゴン車でのイチゴ狩りに出かけている。また、家族との受診時の外出も行なわれている。	コロナ禍で出来なかった企画外出に向け、解消後に向けて何が出来るか、何処なら安全かの話し合いがもたれている。目標達成計画に課題として取り上げ、利用者の楽しみが増える事を絶えず考えている姿勢を評価したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望、家族の意向を伺い状況に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に入居者様と一緒に作成した季節に沿った飾りつけや、外出時や行事等の写真を掲示し、季節を感じていただけるよう努めている。	リビングはエアコン・加湿器・洗濯物を干して温度・湿度管理をし、朝には窓を開けて空気を入れ換え、毎日掃除を行なって清潔感のある共有空間となっている。利用者絵馬に今年の目標を書いて張り出し、今日の目標として歩く歩数等を掲げ達成者にはご褒美が出る楽しみがあり意欲を待っている。また、PTによる個別機能訓練計画書によるリハビリが行われている。ボランティアによる歌・踊り等楽しめる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、ゆっくりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れ親しんだ物を持ってきていただいたり、居室内を自由に使いやすいように設置、飾りつけをしていただいている。	居室は使い慣れたタンス・棚・テレビ、大切な家族・孫の写真等を飾り、家庭生活が継続してい雰囲気作りとなっている。エアコンでの温度管理やバスタオルを干して湿度管理、掃除や衣替は居室担当と一緒にしない、衣類はクローゼットに整理され物を置かないで導線が確保されている。夜間巡回では体位変換・トイレ誘導等安全の確認をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。トイレ、洗面所などわかりやすいよう大きな文字で表示したり工夫している。		

(別表2)

事業所名 いきいきの家香取

目標達成計画

作成日: 令和5 年 2 月 22 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		不適切な言葉使いであったり、なれ合いの声掛け	ユマニチュード、接遇の浸透	繰り返し研修を行う。セルフチェックを定期的に行う。	12ヶ月
2		コロナウイルスの影響で外出レク等が実施出来ていない。	外出可能になった時にすぐ外出が出来る様に準備しておく。	コロナウイルスが5類相当になる際に、ご利用者様やご家族様の要望等にすぐ答えられるように、外出の計画を職員と話し合い、感染の状況見ながらであるが、ご利用者様に喜んでもらえるように計画を立てておく。(お花見や買い物レク等)	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。